

有毒植物(2)

北大薬学部教授 三橋 博



フクジュソウ（福寿草）
(キンポウゲ科)

北海道の各地に自生し又観賞用に植えてある。葉が2回羽状複葉し小葉は羽状で深くさけ、掘ると褐色のひげ根があり春早く新葉と共に鮮黄色の花を開く。葉にも根にも心臓に強く作用する成分が含まれる。これに似た花の美しいナツノフクジュソウは観賞用にされるが成分は同様に有毒である。

フクジュソウの属するキンポウゲ科には有用、有毒なもののが多くある。有用なものとしてはボタン、シャクヤク、オキナグサがあり重要な役割をもっている。



トリカブト（鳥頭）
(キンポウゲ科)

北海道で古くから毒矢につかわれたトリカブトは種類も多く分類がはっきりしないが、各地に自生し、多年草で茎は細長く根は円錐形で年年新しい根塊を生ずる。葉は濃緑色で掌状にさけ、秋に美しい紫色の花をつける。花の形を「かぶと」にたとえたので漢名の鳥頭は根がカラスの頭に似る故とされる。早春この新芽がフクベラの新芽とよく似るので誤って食し中毒死する例が時折ある。極めて猛毒な成分を含み杉野目博士(北大)の研究に引きつづき多くの研究があり、現在は解明せられアコニチンと呼ばれるアルカロイドは毒性が強く人の致死量は3～4mg しかし食べた際は吐き気を生じ吐くから必ずしもこの量では死ないが根の0.1g が致死量に相応するわけであるから注意する必要がある。漢方では重要なもので神経痛、リウマチス等に鎮痛薬として用いられる。漢方の大家が自らこれを処方し、中毒死した事もある。



スズラン（キミカゲソウ）
(ユリ科)

各地(北海道)、山地(内地)に自生する宿根草で、葉は長柄、長楕円形、初夏白色、鐘状の小花を開き、姿やさしく香もゆたかな植物であるが、心臓薬(強心剤)になるコンバラトキシンなる成分が含まれる。